

合格

参加候補者調査記録

ふりがな	くさかべ しょうこ
氏名	日下部 祥子
生年月日	2004年11月6日(19歳)
願い	経営難の会社を救いたい

記録

日下部祥子は、社員数20名ほどの小さな会社で働いており、その危機を救うべく今回のゲームに応募したという。

社長の娘であるとか、縁者であるとか、そういった関係はない。

ただ、「とても世話になったから、その恩を返したくて」

応募理由にはそのようなことが書かれていた。

いったいどれほど世話になれば、命をかけてまで会社を救いたいと思うのだろうか？

私が調査に乗り出したのは、そんな疑問の答えを知りたかったためであった……が。

その途中、思いがけず面白い事実に出会えた。

日下部祥子は、どうやら、過去に養子縁組および改名を行っている。

そして、その背景には、高校時代に起きた自殺事件が関わっているようだ。

その件の前に、まず少女の中学時代までを語ろうと思う……が、

正直なところ、あまり特筆すべきことは見つからなかった。

家族は、両親と5歳上の兄。何かで華々しい成績を残した記録はなく、

イベントごとにおいても、前に出たり上に立ったりの経験は皆無と思われる。

小中の卒業アルバムも手に入れてみたが、彼女がしっかり映っているのは集合写真ぐらいのもの。

文集におけるクラスメイトとの距離感などを見るに、周囲に悪感情を抱かれるタイプではないにしても、これといって深い仲の友人もいないように思えた。

簡潔に言えば、日下部は、「真面目で誰にでも優しい、目立たない子」といったところだろうか。

ただ、世の中ほとんどの人間はそんなものだろう。

日下部はいわゆる、「どこにでもいる普通の女の子」なのだとは感じた。

立ち回りや文章には、引っ込み思案で気の弱そうなところが目に付くが、兄が少しやんちゃなタイプだったようなので、その影響で、という部分はあるのかもしれない。しかし、家族との関係は実に良好だったようだ。両親の関係筋から情報を探ってみた感じ、少なくとも兄が思春期に入るまでは、4人でよく出かけていたという話を聞くことができた。

ここまでは、いかにも素朴、かつ無害な少女の人生だ。しかし、高校1年生の頃、一転して彼女は加害者となる。

日下部が通う高校では、一人の少女をターゲットにしたいじめが横行していた。記録を閲覧した限り、相当ひどいものだ。大人から隠れた場所で、陰湿に、繰り返し行われた犯行。生徒たちの多くがその事実を知っていたにもかかわらず、すべては暗黙のうちに見過ごされた。

やがて、苦痛に耐えかねた少女は自ら命を絶った。呪いと怨嗟の詰まった、「絶対に許さない人間リスト」を残して。

そして、そこには、日下部……いや、彼女のもともとの名前、「五月女りぼん」の名も記されていた。

このリストは、当時ネットにも公開され、たいへんな騒ぎとなった。一人一人にされたこと。呪いの言葉の数々。それらはあまりにインパクトが強く、また人々の心を焚きつけた。

その後、加害者たちがどのような目にあっただかは、説明するまでもないだろう。名前を、住所をさらされ。知り合いには背を向けられ。まったく無関係な人間からも日々容赦ない攻撃を受ける。

嵐のような日々が始まった当初、五月女は必死に訴えた。「わたし、そんなことしてない」と。しかし、その声は石を投げる人々には届かなかった。それほどまでに、リストに書かれた内容は生々しく、被害者がウソをつく理由も、人々にはわからなかったからだ。だが、学校の記録に残っていた五月女の言を信じるならば、彼女は本当に何もしていない。むしろ、被害者に手を差し伸べた ただ一人の人物だった。

少女が亡くなる少し前、ある雨の放課後。五月女は、下駄箱のそばで立ち尽くす被害者を見かけた。

五月女は傘を2本持っていたので、1本を彼女に譲った。
二人は同級生だったが、クラスは違う。こうして直に触れあったのは、このとき一度きりだった。

この件について、学校が事実確認を行うことはなかったようだ。
そのため、真相はもう闇の中……というところだが、
ここまでに受けた日下部/五月女の印象を信じ、当時の被害者の状況に立って考えるのであれば、
被害者は、安全な場所から、気まぐれに優しさを見せた五月女が憎かったのかもしれない。
自分を完全にないものとして扱う他の人間よりも、
すべてを認識しておきながら、束の間の偽善で自らを満たそうとした五月女が。

もちろん、五月女の行動が偽善かそうでないかは、本人にはわからない。
しかし、「五月女が傘を渡した結果、被害者が彼女を陥れようとした」ことは事実だ。

その後、五月女はしばらく引きこもったあと、ひとり家を離れた。そして、親戚のもとで養子縁組を
結び、名前を「祥子」に改める。家族を愛する五月女が徹底的に名前を捨てたのは、そうでないと生
きていけないと思い詰めてしまうほど、人々に手ひどく追い詰められたからだろうか。

日下部祥子となった彼女は、その後 通信高校を卒業。就職を目指す、ただでさえ厳しい就職活動
は、弱っていた日下部の精神をさらに追い詰めたようだ。
通信高校の教員によれば、日下部は「自己肯定感がゼロ」「注目を嫌い、過剰なほどに他人を恐れてい
る」生徒だったそうだ。
そんな彼女を、現在の会社だけが、温かく迎え入れてくれた。
日下部はここでようやく、安心と平穏がある「普通」の生活に戻れたのだ。

名前。自信。平和。日常。
すべてをなくした日下部にとって、会社は新たに手に入れた大事な居場所なのだろう。

最初は どれほど裏がある少女なのかと勘繰っていたが、
どうやら日下部は どこまでも清く、愚直なほどに誠実な人間のようなのだ。
であれば、シラノ様の器にこれほどふさわしい者はないだろう。
私は、日下部を参加者の一人として推薦したい。

【追記】

実際に会って話してみても、上記の印象は変わらなかった。
かつての名前と事件を持ち出すと、激しくうろたえて今にも倒れそうなほどに怯えた。欲望がうずま
くゲームにおいて、彼女のような人間がどう立ち回り、評価されるか見ものだ。